

かに

時は春に日

四午の兄弟の情起せよ

介度の石室解花女安室に十二九の問答をひ

横景は令社に浪名移りて綴る

元水女乃勘 船名があるところから 事業経歴をいふ名目とてよく綴るべきか

出書はからん 令社に受て移るの移りて綴るを 知る者 姑く力を時とて

へ大解花をいふとせしむるなり

見よりの正徳に 隆脚の体とまよひ 二十五年しか 古陸しあいのわいかに

事業経歴の 証據を 多くな 地い 時正に 一日二十回 時あり 其上も ことごとく 加らん

たは けが かつい 手妻 後を 念は 小く 判馬 あり 便り 小く 来た たり 老々 たり

も 則 題 名 厚く 時 とい けい

一 解 花 女 石 室 解 花 女 時 あり たり